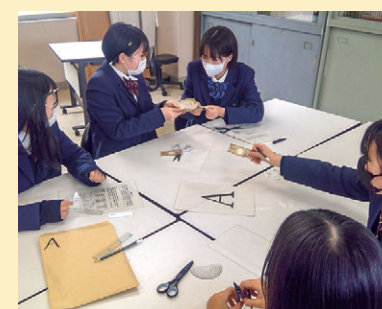


ユネスコスクール 活動事例集



第11集

目次

特集	愛知県のSDGs達成に向けた取組	2
ユネスコスクール活動事例①	名古屋大学教育学部附属中・高等学校	4
ユネスコスクール活動事例②	愛知県立愛知商業高等学校	6
ユネスコスクール活動事例③	愛知県立豊田東高等学校	8
ユネスコスクール活動事例④	愛知県立豊橋南高等学校	10
ユネスコスクール活動事例⑤	名古屋市立北高等学校	12
ユネスコスクール活動事例⑥	名古屋市立山田高等学校	14
ユネスコスクール活動事例⑦	名古屋経済大学市邨高等学校	16
ユネスコスクール活動事例⑧	中部大学第一高等学校	18
	愛知県ユネスコスクール交流会	20

はじめに

ユネスコスクールは、ESDの推進拠点としても位置づけられ、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、1953（昭和28）年に創設された、①地球規模の問題に対する国連システムの理解、②人権、民主主義の理解と促進、③異文化理解、④環境教育、といったテーマについて、質の高い教育を実践する学校です。世界には182か国で約11,500校のユネスコスクールがあり、日本国内では、1,090校（2023年（令和5年）12月現在）が加盟しています。愛知県では、2014（平成26）年11月に名古屋市中で開催された「持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）に関するユネスコ世界会議」を契機としてユネスコスクールへの加盟が進み、現在申請中・キャンディデートを含め161校が活動し、国内最大規模となっています。

SDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）は、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、17の目標及び169のターゲットにより構成されています。一方、ESDはSDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」のうちターゲット4.7に位置付けられ、SDGsの17全ての目標の実現に寄与するものとされています。SDGsの17の目標は、「5つのP（People〈人間〉、Prosperity〈豊かさ・繁栄〉、Planet〈地球〉、Peace〈平和〉、Partnership〈パートナーシップ〉）」のキーワードに分けられますが、「教育」はその全ての基盤となります。そのため、「教育」は持続可能な開発を実現するための鍵であると言われ、ESDはSDGsを達成するために必要な質の高い教育に貢献するものとされています。

愛知県教育委員会では、昨年度から「SDGs AICHI EXPO 2023」の中で、児童・生徒・学生・教員等が交流し、学び合う「ユネスコスクール交流会」を開催しております。また、ユネスコスクールの教員研修等における講師派遣や、管理職・ESD実践担当者等を対象としたESD・SDGs推進指導者研修会を、オンラインを併用したハイブリッド型で実施し、ユネスコスクールの活動の質的向上と、ユネスコスクール同士の交流を目的とした支援事業を行っています。

本事例集は、ESD活動に取り組む県内のユネスコスクールの実践をまとめたものです。学習指導要領の前文及び総則においては、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられ、各教科指導においてもESDの視点での授業改善が求められています。ユネスコスクール加盟の有無を問わず、全ての学校においてESDの充実と広がりへとつながり、未来を担う子供たちの学びに向かう力を育むきっかけとなることを願っています。

結びに、本事例集作成に当たり、御協力いただいたユネスコスクールの先生方、及び関係市町村教育委員会を始めとした関係の皆様にご心から感謝申し上げます。

2024（令和6）年3月

愛知県教育委員会

特集 愛知県のSDGs達成に向けた取組

LEAVE NO ONE BEHIND 誰一人取り残さない

SDGsの成り立ち

SDGsができる前にMDGs (Millennium Development Goals：ミレニアム開発目標) という前身があるのは御存知でしょうか。2000年9月に、147の国家元首を含む189か国の加盟国代表が、21世紀の国際社会の目標として、より安全で豊かな世界づくりへの協力を約束する「国連ミレニアム宣言」を採択しました。この宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットでの開発目標を一つにしたものが「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)」です。MDGsは国際社会の支援を必要とする課題に対して2015年までに達成するという期限付きの8の目標、21のターゲット、60の指標を掲げていました。

1 極度の貧困と飢餓の撲滅

2 普遍的な初等教育の達成

3 ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上

4 幼児死亡率の引き下げ

5 妊産婦の健康状態の改善

6 HIV/エイズ、マラリア、その他の疫病の蔓延防止

7 環境の持続可能性の確保

8 開発のためのグローバル・パートナーシップの構築

SDGsとは？

SDGsはMDGsに代わる新たな行動計画として定められ、MDGsで未達成だった課題や地球規模で向き合わなければならない新たな課題について、先進国と途上国が共に達成すべき目標とし、169のターゲットとともに構成されています。

誰一人取り残さないようにするために、世界で取り組む17の共通の目標

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナリーシップで目標を達成しよう

※1 ジェンダーとは、社会的・文化的な性別のこと。
※2 パートナリーシップとは、みんなで力を合わせること。

Sustainable (持続可能な) Development (開発) Goals (目標)

SDGsとは、2015年に国連加盟国によって総会決議された持続可能な17の開発目標のこと。2030年までにこれらの目標の達成を目指しています。

私たちの
住むまち

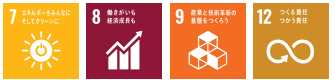
愛知県SDGs未来都市計画について

愛知県が2030年までにさらに住みやすいまちになるための取組

経済・社会・環境の三つの調和がとれた県を目指す

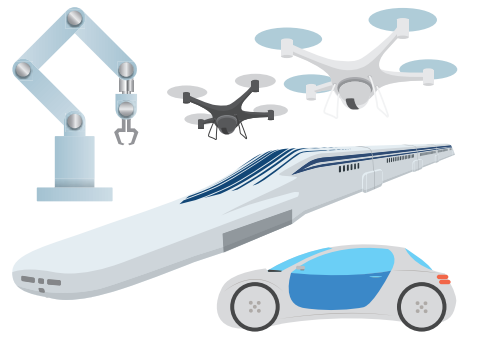
愛知県は、2019年7月に内閣府から、SDGsの達成に向けた優れた取組を実施する「SDGs未来都市」に選ばれました。経済・社会・環境をめぐる幅広い課題に一体的に取り組みながら、全ての県民の皆さんと一緒に持続可能な社会を目指しています。

経済分野



〈SDGsにつながる取組〉

- ・近未来技術等の社会実装の推進
- ・スタートアップ※と既存企業の連携によるイノベーションの創出
- ・自動車分野における新事業展開支援
- ・「モノづくり×AI・IoT※」をテーマとした大学対抗ハッカソン※の開催



世界をリードする日本一の産業の革新・創造拠点

環境に優しい未来の自動車や飛行機、ロボットなどの開発に取り組み、世の中を変える新しい技術をもった企業がどんどんと生まれるような地域を実現します。

〈※用語解説〉・スタートアップ：急成長が期待される設立間もない企業のこと ・IoT：様々なモノがインターネットにつながること
・ハッカソン：パソコンを活用して新たな製品・サービスの開発を競い合うイベント

社会分野



〈SDGsにつながる取組〉

- ・若者の活躍促進
- ・女性の活躍促進
- ・高年齢者の活躍促進
- ・障害者の活躍促進
- ・外国人の活躍促進



人が輝き、女性や高齢者、障害のある人など、全ての人が活躍する愛知

人口の減少や、高齢者の増加がますます進んでいく中、年齢や性別、障害の有無、国籍などに関わらず、どのような人でも活躍でき、全員で支え合う社会を実現します。

環境分野



〈SDGsにつながる取組〉

- ・「あいち地球温暖化防止戦略2030」の推進
- ・EV・PHV・FCV※の普及促進
- ・循環型社会に向けた取組
- ・自然との共生に向けた取組
- ・行動する「人づくり」



県民みんなで未来へつなぐ「環境首都あいち」

県民の皆さんが、あらゆる場面で環境のことを考えた行動をすることで、安全で快適な暮らしを守り、環境と経済がうまく共存できる地域を実現します。

〈※用語解説〉・EV・PHV・FCV：電気自動車・プラグインハイブリッド車・燃料電池自動車の略

※各分野の目標は愛知県が独自に選定したものです。

- 環境
- 国際理解
- 地域文化
- 気候変動
- 生物多様性
- 防災
- エネルギー
- その他

名古屋大学教育学部附属中・高等学校



創立：1947年
住所：〒464-8601 名古屋市千種区不老町
連絡先：TEL 052-789-2680 FAX 052-789-2696
学級数：15 (中学6 高校9) 生徒数：600人 (中学240人 高校360人)
HP：https://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

本格的なリアル開幕!!

はじめに

今年入学した高校1年生は、中学時代にコロナ禍の大きな制約を受けた世代である。入学後、時を置かず新型コロナウイルスが第5類に分類され、多くの制約が緩和された。まさに2023年度は、「本格的なリアル開幕!!」となった。生徒も教員も待っていたとばかりに、屋外に飛

び出した。海外との交流も活発になり、協働的な学習も再開した。しかしながら視線を世界に移すと、多くの紛争がいたるところで勃発し世界は分断されてしまっている。夢と希望をもって子供たちが成長するためには、「教育の力」が何よりだと信じている。

実践内容① 「国連『第6回 水と災害に関する特別会合』への参観」

ねらい：世界の最先端に触れ、自分と世界とのつながりを身近なものとして認識することをねらいとする。



テレビや新聞でよく見聞きする国連。言葉では知っているが、実際に行われている生の会議を参観する機会は多くはない。しかしながら幸運なことに本校生徒8名が、国連「第6回 水と災害に関する特別会合」が実際に行われている現場を傍聴する機会を得ることができた。「第6回水と災害に関する特別会合」は、米国ニューヨークの国連で2023年3月21日(火)に「水、災害リスク軽減に関する中間レビュー、気候変動プロセスの連携を目指して」というテーマで開催された。会議で行われた天皇陛下による基調講演をオンラインで拝聴し、その後に行われた参加各国の代表者による活発な議論を傍聴することができた。また、「第6回 水と災害に関する特別会合」に先立ち、

国連ツアー(日本語)に参加し、国連の役割やその機能等について理解を深めることができた。訪米前には、国際連合地域開発センター横田妙子さんによる事前学習を本校で実施、訪米後は国際連合監査部局に勤務している山川のぞみさんから実際に国連についての講話をしていただいた。各国代表から、それぞれの国で発生している数々の水害についての現状、その対応策に関する議論を、同時通訳機を介して聞きながら、気候変動の影響が地球規模で発生している現状を改めて認識した。またこの分野では日本で行われている防災・減災の技術や災害復興に関するこれまでの蓄積が大きく役立つことも参加した生徒たちは知る機会となった。



国連での様子

成果

国連での議論をその場で傍聴する機会を得たことや、直接国連関係の方々からお話をうかがうことで、国際的な機関で働くことをおとして、国際的に活躍できる人材として活躍するという意欲を向上させることにつながった。また、この経験を校内で他の生徒に伝えることで、多くの生徒が、同じ経験を追体験することもできた。



実践内容② 「愛知県ユネスコスクール交流会への参加」

ねらい：様々なステークホルダーと交流することで、次のステップにつなげることをねらいとする。

2023年10月7日(土)に、愛知県常滑市にあるAICHI SKY EXPO (愛知県国際展示場)でSDGs AICHI EXPO 2023の一環として行われた愛知県ユネスコスクール交流会に参加した。ここでは、参加生徒がポスター発表とワークショップを実施した。当日は、小学生から大人まで様々な年代の人たちが集まり、意見交換や交流活動を行った。ポスター発表では、「知ってるようで知らない日本と世界の

違い」と題して、留学を経験した高校生たちが現地で知ったびっくりを紹介した。また、ワークショップでは「体験型SDGs ～見て・触って・体験しよう～」と題して、初歩的な英語を使って遊んだり、ジェンダー平等についてのゲームをして、SDGsにまつわる取組を実際に来場者と一緒に体験した。



交流会の様子

成果 日頃からつながりのある同世代の高校生だけでなく、小学生や大人の方に対して、活動内容を発表して意見や感想をもらうことで、これまで気づかなかった「物の見方や考え方」を学ぶことができた。また、相手の立場に立った発表の仕方でも学ぶことができた。

実践内容③ 「ユネスコ講演会の開催」

ねらい：「本物に会う、本物から学ぶ」ことで、人生のキャリアパスを創造することをねらいとする。

ユネスコ国内委員会会長である濱口道成先生をお招きし、中学生と高校生にメッセージスピーチをしていただいた。テーマは、「いまだから、世界について考えよう!!」。2023年12月18日(月)13:30~15:00に本校交流ホールには、多くの中学生や高校生が集まった。お話の冒頭で濱口道成先生が「芦屋のひまわりのクローン画」の実物を生徒に提示しスタートした。「芦屋のひまわりのクローン画」は、日本画家の宮迫正明先生がクローン芸術で描かれた絵画

である。その後、世界で蔓延している感染症や、実際に今起こっている紛争についてお話をされ、ユネスコ憲章前文にある「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という言葉の意味について濱口先生を交えて、参加生徒全員で議論した。



ユネスコ講演会の様子

成果 中学生や高校生にとって、人生のキャリアパスを創造することは容易なことではない。先が見えない今ならなおさらのことである。このような時代において、人生の先輩から専門的な内容を含めてお話をうかがうことで、世界での事象を自分事として捉えることができたのではないかと考える。

おわりに

今年度は「本格的なリアル開幕!!」をユネスコスクールとしての活動テーマとした。上記の活動以外にも、高校生国際会議や、アントレプレナー・アイデアピッチコンテスト・ジュニア、生徒課題研究発表会等をリアルで実施した。久しぶりのリアル実施に関わらず、躊躇なく生き生きと

生徒たちが活動していたことが新鮮であるとともに、頼もしく感じた。また、海外から多くの留学生(長期・短期)も本校に戻ってきた。海外からの留学生とも物おじせず、積極的に英語や日本語を交えて交流する中学生や高校生の姿は、まさに、「本格的なリアル開幕!!」だと感じた。



- 環境
- 国際理解
- 地域文化
- 気候変動
- 生物多様性
- 防災
- エネルギー
- その他

愛知県立愛知商業高等学校

愛知

創立：1919年
住所：〒461-0025 名古屋市東区徳川一丁目12番1号
連絡先：TEL 052-935-3480 FAX 052-935-3470
学級数：21 生徒数：763人
HP：https://aichi-ch.aichi-c.ed.jp/

心の中に「平和のとりで」を築くには？

はじめに

現在の2年生が高校に入学する頃からウクライナ戦争が始まり、彼らの高校生活の近くには戦争があったといえる。最近ではパレスチナ紛争が激化している。今こそユネスコ精神を世界に広げることが求められているのではないだろうか。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、

心の中に平和のとりでを築かなければならない。」(ユネスコ憲章) ユネスコスクールから平和を実現するために何ができるか。1年生の公共の授業では「異文化理解」、2年生の地理の授業では南北問題をはじめとする「地球的課題」に取り組んだ。

実践内容①

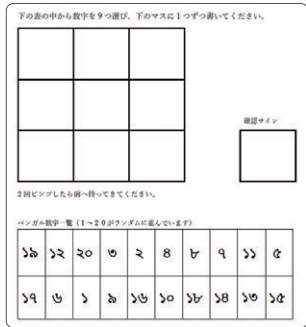
「バングラデシュってどんな国？」

ねらい：バングラデシュ出身の方との交流をとおして、異文化に興味をもち、楽しみ、理解する。

バングラデシュ出身の方をお招きし、講演会を実施した。1年生の7クラスが体育館に集合。バングラデシュという国の成り立ち、食文化、観光地、イスラム教や学校文化についてなど、実に様々な視点からユーモアを交えてお話していただいた。バングラデシュの知識がない生徒が大半。講演の中で、「バングラデシュの建国を初めて認めてくれたのは日本」ということや、国旗が非常によく似ていることなどを知った。

講演会後に交流会を行った。有志の生徒がバングラデシュに関するクイズを出題。日本のお手玉と似ている

遊びや、バングラデシュで人気のスポーツやグルメを紹介。正解が発表される



生徒作成のバングラデシュビンゴカード



度に、体育館に喚声がとどろいた。

その後、バングラデシュ数字を使用したビンゴ大会も実施。ベンガル数字は日本人にとって全くの異文化。自分で好きな数字を選んでビンゴカードを作成した。書くのにも生徒たちは四苦八苦。さらに、数字の「8」に似たベンガル数字は、実は「4」であることなどが披露されると、会場からはまた喚声。大いに盛り上がった。質疑応答では、「バングラデシュの特産物は何ですか？」という質問。「服です。世界2位です。」生徒は大いに驚き、非常に興味を駆り立てられていた。

最後に、イスラームの挨拶「アッサラームアライクム」を教えていただいた。意味は、「あなたに、平和がありますように」。今こそ、全世界の人に知ってほしい言葉である。

成果

講演をとおして日本とのつながりを知り、バングラデシュを身近に感じた生徒が多かった。イスラム教に対するイメージも変わった生徒が多い。クイズやビンゴでは、他国の文化を知る楽しさを体感できた。この体験をとおして、異文化理解の楽しさと共に大切さを感じることができたのではないかな。



実践内容②

「地球的課題の解決のために、私たちには何ができる？」

ねらい：「貿易ゲーム」の実践や振り返りをとおして、地球的課題を体感するとともに、解決策を考える。

南北問題、環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題…。地球上には様々な課題が存在し、深刻な被害を受けている人々がいる。しかし、裕福な国日本に暮らす生徒たちは、その課題を実感する機会が少ない。そこで今回は、「貿易ゲーム」をとおして地球的課題について考えてみることにした。

ルールは簡単。支給された道具・資源のみを使って、製品を作り、売却し、より多くのお金を稼いだグループが勝ち。しかし、グループごとに与えられた道具・資源の質や量に格差がつけられている。この先進国と発展途上国を模したグループ間格差の中で、生徒たちは各々交渉しながら、より多くのお金を稼ぐ方法を考えていく。

ゲームの途中には様々なイベントが起こる。製品の価格が下落し、新たな資源が発見され、特定のグループに道具が新たに支給されていく。その度に生徒は右往左往し、新たな手立てを考える。

「なぜたくさんあるのに一つも道具をくれないの?」道具・資源をもたないグループは、口を揃えて周囲にこう訴えかける。しかし、「私たちもお金稼がないといけないから。」と他グループは聞く耳をもたない。

貿易ゲームに取り組んだ生徒のコメントは、「交渉しても譲ってくれなかったからとても悲しかった。」「平等に仲良くすることが大切だと思っていたけど、いざゲームをしてみると自己利益ばかりを追求していた。反省したい。」



各グループの道具・資源の格差

成果

「貿易ゲーム」を通じて、世界中に蔓延する様々な格差や課題を、現実の社会と対比しつつ体験的・共感的に理解することができた。また、こうした課題の解決に向けた取組にはどのようなものがあるのか、SDGsの観点も踏まえながらより具体的に考えることができた。

おわりに

ユネスコスクールから平和を実現するために何ができるか。社会科では、体験することにこだわって実践した。1年生は、バングラデシュの方との交流をとおして「異文化理解」を体験した。2年生は、貿易ゲームをとおして南北問題をはじめとする「地球的課題」に取り組んだ。

であり、世界中に広がる様々な格差や各国の立場を、自分事として捉えることができたのではないだろうか。

ゲームを終えると、「貿易ゲームと現実社会との結び付き」をテーマに振り返りを行った。ゲーム内で発生した出来事やイベントが、現実の社会のどのような様子を表しているかを考えた。「貧しいグループから出ていった子がいたけど、あれって出稼ぎとか外国人労働者だね。」「裕福なグループほど、ゲームで出たごみの量が多いよね。現実社会も同じなら、先進国はもっと無駄遣いについて考えないといけないと思う。」会話を弾ませていた。

社会との結び付きを考えた後、最後には貿易ゲームのルールやイベントを自分なりにアレンジした。経済格差をなくすため、地球的課題を実感するためにはどのようなイベントが有効かを話し合っていく。

生徒のアイデアを紹介。「〈手作り需要の高まり〉イベント：手や定規でつくった製品の値段を上げ、ハサミでつくった製品の値段は下げる。こうした取組があれば、技術をもたない貧しい国にも発展のチャンスがある。」

革新的なアイデアに周囲の生徒も驚き、関心を向けていた。



「貿易ゲーム」でお金を稼ぐ様子

ゲームのアレンジでは「戦争をゲームに盛り込めないか」という議論も出た。どのようなルールにすれば戦争が防げるのか。生徒たちは現実社会と向き合って考えていた姿が印象的であった。生徒たちが「心の中に平和のとりでを築く」第一歩となることを願っている。



環 境	国際理解
地域文化	気候変動
生物多様性	防 災
エネルギー	そ の 他

愛知県立豊田東高等学校



創 立：1924年
住 所：〒471-0811 豊田市御立町11丁目1番地
連絡先：TEL 0565-80-1177 FAX 0565-80-5066
学級数：18 生徒数：708人
H P：https://toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp/

世界や地域とつながり「夢の実現」を目指す

はじめに

本校は、環境教育、国際理解教育、地域連携教育を三つの柱として、ESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んでいる。台湾修学旅行や姉妹校派遣を軸とした国際理解教育、地域でのボランティアなどの活動をと

して実践している。また、自他の敬愛と協力により、多様な生き方や価値観を尊重するとともに、自らの在り方や生き方を追求して夢の実現に向けて主体的に行動する生徒を育成している。

実践内容①

「オーストラリア姉妹校との異文化交流」



ねらい：オーストラリア姉妹校訪問団の受け入れをとおして、異文化を理解する態度を養う。

2023年9月2日(土)から9日(土)まで、オーストリアのメルボルンにある姉妹校の生徒14名と3名の先生を本校に迎えて異文化交流を行った。本校からは1年生から3年生までの14名の女子生徒がホストシスターとして、訪問団をもてなし、学内外で交流を行った。登校初日は昼食歓迎会が行われ、日本の家庭料理を楽しんだ。歓迎式典では、吹奏楽部の演奏とともに、全校生徒で訪問団を歓迎した。様々な授業で交流を計画した。音楽の授業では、一緒にギターを弾きながら日本語と英語で歌を披露した。国語の授業では、日本語と英語で折句を作りながら言語についての学びを深めた。美術の授業では、姉妹校の先生からオーストラリアの動物の描き方を教えていただいた。英語の授業では、日本とオーストラリアの教育の違いについてディスカッションした。

部活動では、箏曲部、IFC部、茶道部、書道部の生徒が日本の伝統文化を英語で伝えながら、訪問団に日本文化体験をしてもらった。国際交流委員会は日本の伝統工芸品の一つである水引を使った梅結び体験を実施した。学外でも豊田市民芸館・トヨタ会館を訪問し、藍染体験や豊田市の産業に触れる体験をした。京都への小旅行では、浴衣姿で平安神宮を参拝し、東山を散策した。登校最終日の夜には送別パーティーが行われた。言語や文化が違って「家族」の一員同然としてともに貴重な交流の機会を過ごすことができた。



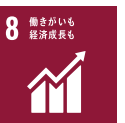
ギターを練習する両校の生徒たち

成 果

オーストラリア姉妹校との交流をとおして、異文化理解への興味関心が高まったことに加え、英語の学習意欲を高めることができた。ホストシスターを経験した生徒からは、「言語が違うだけで、同じ人間なのだと思った。」「苦手意識のあった英語にも勉強意欲が湧いた。」という感想がみられた。



書道部生徒による書道体験



実践内容②

「プランの学びを生かした地域連携活動」

ねらい：地域との様々なつながりをとおして、未来の地域社会を担う人材へと育てる。

地域企業との連携活動として、調理・栄養プランの生徒は、地産地消を推進する新商品の開発を行った。地元の稲武産の米粉を使用したお菓子をテーマにレシピを開発した。商品のパッケージに貼るラベルのデザインは、ビジネスプランの生徒がデザインした。また、地域活性化のため地域の企業と連携し、消費者目線に立った商品開発の知識・技能を学ぶことを目的として、調理・栄養プランの生徒が「高校生の作るお弁当」企画や「高校生の作る恵方巻」企画に取り組んだ。

地域の商店街との連携活動として、のぼりと宣伝用の旗の作成を行った。のぼりは、ビジネスプランの生徒が学んできたことを生かして制作に取り組んだ。また、旗は、美術プランの生徒が各店舗に出かけ、直接店主と打ち合わせを行い、できるだけ店主の意向を取り入れ完成までに何度も確認しながら、アクリル絵の具を使って美しく仕上げた。

その他の地域連携として、「それいけ! とよた魅力発見隊」では、小学生と一緒に歩きながら、「先輩隊員」として豊田市の魅力を再発見できるように導いた。「豊スタおいでん夏祭りこども縁日」では、玉入れやボウリング、また、回遊企画やふわふわ遊具のスタッフとして活動した。「とよた産業フェスタ」では、子供たちに将来の夢を



保育プラン「ゴミから魚を助けよう!」

アクリル板に描いてもったり、ふわふわ遊具コーナーの運営、バルーンアー

ト作りなどを担当したりした。こども発達センターでの交流活動では、子供たちと遊んだり、おやつのお世話をしたりした。施設で働く様々な職員の仕事の様子を間近に目にすることができた。近くの小学校の特別支援学級児童との交流活動では、福祉・健康プランの生徒が特別支援学級の子供たちと直接交流した。「美里ふれあいフェスタ」では、保育プランの生徒が子供向け企画として「ゴミから魚を助けよう!」を考え、SDGsのテーマに沿って、子供たちにガラス瓶やペットボトルなどを分別してもらった。地域の子供たちを対象としたイベント「東高まつり」を実施し、JRC部がクリスマスリースを子供たちと一緒に作り、合唱部もミニコンサートを行った。

今年度初めて参加した活動としては、障害者支援施設での夏祭りで模擬店やゲームコーナーのお手伝い、会場の美化活動を担当した。豊田市の国際交流協会が主催するキッズフェスティバルでは、多国籍の子供たちに様々な国の文化に触れ、楽しんでもらうゲームを行った。

成 果

生徒たちは地域連携活動をとおして、地域と人、人と人との結びつくことの意義や、自分たちもその地域の一員であることを実感することができた。日頃の学びを地域に還元し、自分の進路をより具体的に考える一助となっている。

おわりに

本校のESD（持続可能な開発のための教育）の活動は、生徒が日頃の学びを生かし、自分の進路を考える場となっている。ユネスコスクールとして「SDGsをとおして持続可能な社会の担い手を育む教育」をどのように進めていくべきか考え、さらに工夫して、活動の幅を広げていきたい。

新型コロナウイルス感染拡大の中でも、本校がこれまで築いてきた多くのつながりに支えられ、活動を続けることができた。このようなつながりに感謝しつつ、来年度も新しいつながりを築いていきたい。

- 環境
- 国際理解
- 地域文化
- 気候変動
- 生物多様性
- 防災
- エネルギー
- その他

愛知県立豊橋南高等学校



創立：1972年
住所：〒441-8132 豊橋市南大清水町字元町450
連絡先：TEL 0532-25-1476 FAX 0532-25-4887
学級数：21 生徒数：824人
HP：https://toyohashiminami-h.aichi-c.ed.jp/

主体的な取組を通じて生きる力を育む

はじめに

豊橋南高校は豊橋市南部に位置し2020年度には創立50周年を迎えた。本校は「地域に開かれた学校」を理念として、ユネスコスクールの活動を持続可能なまちづくりと捉え、地域に貢献し、地域から愛されることを目的とし

ている。ボランティアグループ「のはな」を中心にユネスコ委員会などが積極的にボランティア活動を推進している。また、「教育」をとおして地域社会に貢献することを目的とした教育コースが2018年に開設された。

実践内容① 「あいさつ運動をとおして、元気なまちづくり」

ねらい：近隣の小・中学校のあいさつ運動に参加し、教育の視点からすすんで挨拶ができる生徒を育てる。

本校の教育コース1、2年生が近隣の4小学校（大清水小学校、植田小学校、野依小学校、富士見小学校）と豊橋市立南稜中学校のあいさつ運動に参加している。この取組は教育コースが開設された2018年度から続いている活動である。本校の教育コースは、将来、教育現場で働きたい生徒が中心で、教員の立場から「あいさつを



児童に元気よくあいさつをする高校生

する大切さ」を学ぶことを目的としている。最初は緊張しながらあいさつをする高校生が、次第に児童の目を見て、時にはハイタッチをするなど、児童の目線に合わせたあいさつができるようになった。また、あいさつの後に「今日も1日ががんばろうね!」や「元気なあいさつをしてくれてありがとう!」なども一言付け加える工夫も見られ、生徒の主体的な行動が児童の笑顔につながり、小学校の先生方からも児童にとって大変良い影響が得られていると評価が高い。南稜中学校あいさつ運動に参加した際も、年齢がとても近い高校生との交流がとても楽しみだという評価を得られている。今後も小中学校との連携を維持し、元気なまちづくりにするため、この活動を実践していく。

成果

これらの活動をとおして、生徒たちは教師の視点で物事を考える力を身につけることができた。生徒が主体的に学校外活動に参加することで、社会の一員である意識をもち、学校内でも積極的にあいさつをする姿が見られた。



実践内容② 「ミナクル夏休み教室」

ねらい：小学生の夏休みの宿題を高校生がサポートし、地域に貢献する。

夏休みに教育コースの生徒が近隣にある豊橋市大清水まなび交流館「ミナクル」の施設をお借りし、小学生の夏休みの宿題をサポートする活動を行っている。この活動は秋に行われる「小学校体験実習」の事前学習として位置づけられ、高校生には教えることの難しさや児童理解を学ぶことを目的としている。感染症予防として1日に40名を定員とし、3日間行っている。コロナ前は1日に100名を超える児童が来ることもあり、自由研究や読書感想文、ポスターなど高校生としてアドバイスをした。中には日本語が苦手な外国人児童も来ることもあり、積極的に身振り手振りを使って伝えようとする姿も見られた。



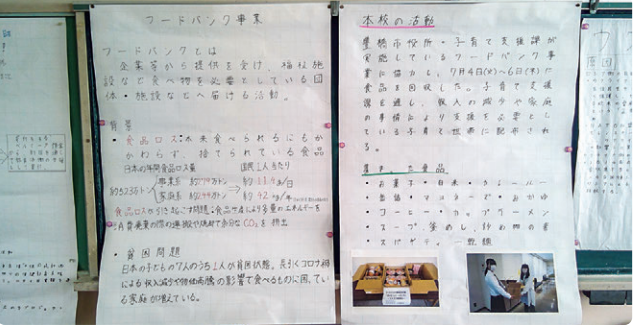
児童の夏休みの宿題をサポート

成果 高校生にとっては、児童に勉強を教える良い機会であるとともに、児童の保護者からも夏休みの宿題を見てくれることから安心して預けることができ、お互いにとって良い活動である。高校生にとって、この活動が地域貢献につながっている実感がある。

実践内容③ 「フードバンク活動」

ねらい：本校ユネスコ委員会の活動によって、主体性を育成する。

本校がユネスコスクールとして始まった2020年度からユネスコ委員会が発足された。各クラスの代表が協力し、高校生として地域に何ができるのかを考え、主体的にペットボトルキャップの回収やSDGsの普及活動などを行っている。今年度はフードバンク活動を行い、職員・生徒から食品等を回収し、NGO団体へ寄付することができた。これらの活動は生徒自ら現状や課題を調べ、行動することができた。また、ユネスコ委員会の活動を全生徒に周知すべく文化祭にてポスターセッションで発表した。



ユネスコ委員会の活動を文化祭で発表

成果 「持続可能な社会の創り手となるために、私たち高校生は何ができるのか?」という答えのない問いに対して、問題解決する力を身に付けることができた。学校の中だけではなく、積極的に学校外の人とつながることで、自分たちの存在意義を感じている。

おわりに

高校では総合的な探究の時間が2022年度から始まった。変化の激しい社会に対応するために、探究的な見方・考え方を働かせながら、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育てることをねらいとしている。本校の地域を巻き込んだ様々な活動が生徒

の主体性を育み、将来を見据え、自分の力で問題を解決する力を身に付けることができた。これは文部科学省が掲げる「生きる力」につながり、心豊かな人間性を育てていると生徒たちから学ぶことができたことに感謝をしている。



- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

- 環境
- 国際理解
- 地域文化
- 気候変動
- 生物多様性
- 防災
- エネルギー
- その他

名古屋市立北高等学校

止高
創立：1963年
住所：〒462-0008 名古屋市北区如来町50番地
連絡先：TEL 052-901-0338 FAX 052-902-1596
学級数：21 生徒数：826人
HP：https://www.nagoya-c.ed.jp/school/kita-h/

SDGsアクションを起こす人材の育成

はじめに

本校は、2015年度より国際理解コースを開設し、NPOへの活動協力をとおしてESDに積極的に取り組んできた。2018年にユネスコスクールとなり、その活動をホールスクールアクションにしていくために、翌年に「ユネスコ委員会」を立ち上げた。自主的な活動の継続を目指し、

生徒自身の当事者意識を高める活動から始め、生徒による生徒のための企画を実践している。SDGsの啓発活動や活動実践をとおして、生徒たちがグローバルイシューを自分事として捉え、身近な活動から自発的に行動を起こすことを支援している。

実践内容① 「ユネスコスクールとしての活動」

ねらい：生徒がSDGsを身近に感じ、問題解決に向けて自ら問いかける力を育成する。

本校では、年間にSDGsに関連する講演会を数々企画している。本年度も、1年生全員及び国際理解コース2、3年生の生徒を対象に、「ユネスコ講演会」を実施した。ルワンダなどアフリカに滞在経験のある講師から、現地の人々が置かれている貧困の状況や、その原因となった歴史や文化的背景を学んだ。さらに、ルワンダの人々と



ユネスコ講演会



共に問題解決に取り組むプロジェクトを始めたきっかけや経緯について具体的な話を聴くことができた。現地のアフリカンバティックを使った布製品の販売をとおしたフェアトレードという支援方法は生徒にも理解しやすく、講演の後にも有志の生徒がボランティアとして「販売」体験をしたり、学校祭でルワンダの布雑貨を「販売」したり、多くの生徒が関わるができる活動へとつながった。他に、「企業による講演会」「異文化理解講演会」などを実施し、豊かな経験や技術をもつ人たちの話を聴き視野を広げる機会となった。

成果

多くの具体的な「お手本」に触れることで、SDGsという言葉や概念を自分の生活と結びつけて考えることに慣れてくる。小さなアクションが地球規模の成果を生み出す第一歩となることを学び、自分たちにできることは何かを考え、さらに実践に移すことができるようになった。

実践内容② 「ユネスコ委員会の活動」

ねらい：生徒が自ら問題を見つけ、問題への取組を発案し、実践する力を育成する。

生徒会の委員会の一つであるユネスコ委員会では、様々な活動に取り組み、年間行事として定着するものも増えてきた。「SDGs映画観賞会」、「フェアトレードチョコレート販売」「書き損じはがき回収」、「学校祭フェアトレード雑貨販売」などである。また、生徒の提案から始まった「コンタクトレンズ空ケース回収」活動も継続して実施している。年間の回収量は10kgを超える。本年度は新たに、「アップサイクル」に取り組む地元企業を訪問して学習し、自分たちにできる形の「アップサイクル」を模索した。



文化祭フェアトレード雑貨販売



コンタクトレンズ空ケース回収

その結果、捨ててしまう紙からペーパー・ビーズをつくり、それを使ったアクセサリ作りに挑戦した。学校外のイベントで子供たちを対象にペーパー・ビーズアクセサリのワークショップを開いた。最初の声掛けやイベントの情報以外は、ほぼ生徒が自主的に行動した実践例である。

成果

SDGsについて学ぶ機会は増えても、全ての生徒が自分事として行動に移すことは難しい。しかし、活動の種類が増えることと一定の活動を継続することが、多くの生徒にとって自発的に参加してみようと思う機会を提供できる。

実践内容③ 「ユネスコスクール交流会」

ねらい：ユネスコスクール間の交流を深め、お互いのプロジェクトから学びあう。

ユネスコスクール交流会に参加し、ユネスコスクールとしての本校の取組を報告した。発表経験があるユネスコ委員や実際の活動に携わった生徒を募り、報告スライドと原稿を分担して作成した。例年、ユネスコ委員会の設立と、前年度後半から本年度前半までに実践した活動について報告している。当日は、数多くの展示ブースを見て回り、

ユネスコスクールに加えて、地域の企業や市町村のSDGsへの取組について学んだ。



ユネスコスクール交流会

成果

他校の取組だけでなく自分たちの周辺社会の活動を広く知る機会をもつことができ、様々な気づきや学びを得ることができた。また、大勢の前で発表をすることで問題意識を共有し、発信することへの自信につながり、大きな成長へと結びついた。

おわりに

委員会を発足したことで、自主的な実践活動が増えていく。啓発のための各種講演会と共にユネスコ書き損じはがき回収や、コンタクトレンズ空ケースの回収といった他団体の活動への参加だけでなく、本校独自の活動となるフェアトレード推進活動も、定例行事として定着しつつある。

本校のモットーは「楽しくサステナブルな活動」である。SDGsは、地球上に生きる誰もが向かうべき目標であり、達成されるまで行動し続けることが求められる。継続するためにも「楽しさ」を意義ある活動へつなげ、世界に目を向け、「できる」ことから行動する力を生徒の中に育てていきたい。



環 境 国際理解

地域文化 気候変動

生物多様性 防 災

エネルギー そ の 他

名古屋市立山田高等学校



創 立：1978年
住 所：〒452-0817 名古屋市西区二方町19-1
連絡先：TEL 052-501-7800 FAX 052-504-2968
学級数：22 生徒数：847人
H P：https://www.nagoya-c.ed.jp/school/yamada-h/

「なごや発「地球人」の育成を目指して

はじめに

山田高校は、命・心・環境を大切にする「人間教育」の実践を掲げ、2012年12月に名古屋市立高校で初めて「ユネスコスクール」に認定された。スクールミッションとして、命・心・環境を大切にする「人間教育」を実践する「ユネスコスクール」として、健やかで柔軟な心身の育成

とともに、社会について興味をもち、主体的に関わりながら、自らの進路目標を実現できる人材の育成を目指し、現在は新たに「防災」「国際理解」の実践活動にも幅を広げ、新学習指導要領に基づいた探究活動の充実に取り組んでいる。

実践内容① 「防災委員の取組」

ねらい：自然災害に備えることの大切さを理解するとともに、災害時に活躍できる人材の育成を目指す

1・2年生の各クラスから1名の防災委員を選出し、委員会の活動をとおりて、全校生徒の防災意識を高める活動に取り組んでいる。

1学期は、「災害予防」のための防災教育を目的として、防災委員の「防災施設見学」を行っている。今年度は、名古屋市港防災センターの見学を行い、伊勢湾台風の被害を伝えるビデオの鑑賞、紙皿作り体験、火災の際に出る煙からの避難体験、阪神淡路大震災の揺れ（震度7）の体験などを行った。さらに、2学期は、震災発生時に適切な行動が取れるよう、どのように備えるかを学ぶとともに、災害発生時に高校生として、地域社会において

どう行動するべきかを考えるために、1年生全員を対象に「防災教室」を開催している。今年度は、名古屋市港防災センターから講師を招いて、「災害！どうする？～高校生だからこそ、できること～」というテーマで講演会を実施した。

防災委員は、1学期の「防災施設見学」と2学期の「防災教室」の内容をまとめ、年2回の「防災新聞」発行をとおりて、全校生徒に還元している。

また、入学時に非常用備蓄食を購入して学校に保管し、卒業時に返却する取組を行っているが、その試食会を実施して非常食の新規購入品の選定も行っている。



火災の際に出る煙からの避難体験

成 果

防災新聞は、防災意識の向上により、多くの人命が助かることを願う防災委員の思いが込められた内容となっている。新聞の発行をとおりて、生徒の防災に関する知識や関心が高く保たれている。学校でどう備えるか、生徒が住んでいる地域社会で何ができるのかを主体的に考えることができる生徒が育っている。



1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

実践内容② 「AED特別講習会」

ねらい：命の尊さを感じるとともに、救急救命の基礎を習得することで自ら行動できる人材の育成を目指す

「人間教育」を実践するための中核として位置付けられている「命」に関わる体験活動として、「保健体育科」教員が中心となって「AED特別講習会」を開催している。この講座のために教員は、応急手当普及員の資格を取り、定期的に更新しながら生徒を指導している。「保健」の授業では、「応急手当（心肺蘇生法）」の単元において、応急手当の意義や手法、応急手当が必要な場面に遭遇した時に必要となる行動について理解するとともに、心肺蘇生法の技能などを身に付けることを目標にしている。「保健」の授業を受けた上でさらに応急手当について学ぶ意欲をもっている生徒を対象にした「AED特別講習会」では、初めにAED使用方法や活用の仕方について復習し、その後グループに分かれて心肺蘇生のトレーニング用人形とAEDトレーナーを使い実習を行う。実習内容は、傷病者発見から胸骨圧迫と人工呼吸、AEDの使用方法、傷病者の運搬法についてである。グループでの実習が終了したら、1人ずつ実技テストを実施している。指導資格をもった教員が指導することにより、実技テストに無事合格した生徒には



人形とAEDトレーナーを使った実習

「普通救命講習修了証」を授与している。

また、「命」に関わる取組として、戦争や原爆に関する学習や「被爆体験伝承者講話」、2年生の修学旅行における「平和学習」、人権に関する講演会を主とする「こころの健康教室」なども実施している。これらの活動をとおりて、「平和」や「人権」について理解を深めるとともに、「命」の尊さや素晴らしさについて体感することができるようにしている。

成 果

救急救命の基礎を学ぶことでAED機器の使用にも臆することなく、居合わせた人々と力を合わせて緊急時に対処する力を育むことができている。生徒がAEDの設置されている場所を校内だけでなく近隣の商業施設においても確認するなど、一人一人が「命」に真摯に向き合う姿勢を高めている。



合格を目指し1人ずつ実技テストを実施

おわりに

本校では他にも、「国際理解」に関する取組として、2017年11月から姉妹校提携を結んでいるオーストラリアのシドニー近郊にあるBMGS (Blue Mountains Grammar School) とのホームステイ受入などの国際交流を推進している。

今後は教育課程において探究的な要素を取り入れた

学習活動の推進が一層求められているため、「総合的な探究の時間」を軸に探究学習の改善を図るとともに、ユネスコスクールとしての取組を外部に対して効果的に発信することが課題となっている。これからもSDGsの観点により多く取り入れた教育活動を進めていきたい。

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナリーシップで目標を達成しよう

- 環 境
- 国際理解
- 地域文化
- 気候変動
- 生物多様性
- 防 災
- エネルギー
- そ の 他

名古屋経済大学市邨高等学校



創 立：1907年
住 所：〒464-8533 名古屋市千種区北千種3-1-37
連絡先：TEL 052-721-0161 FAX 052-721-1222
学級数：42 生徒数：1,400人
H P：https://www.ichimura.ed.jp/

国境を越え、協働して取り組む国際貢献活動

はじめに

私たち名古屋経済大学市邨高等学校は、戦争や紛争で自国を追われた難民や、戦争や紛争を起因とした貧困環境で暮らす子供たちを支援している人々との協働活動を2018年度からはじめ、企業・地域の方々、国内外の高校とパートナーシップ協定を結んで協働活動をしています。

特に大切にしていることは、現地の状況を学ぶことです。コロナ禍にあってもICT機器を活用することでリアルタイムに現状を知ることができました。また、現地の状況を全国に届けることができました。

実践内容①

「シリア・パレスチナ難民女性の経済的自立を応援したい」

ねらい：現地の情勢を深く学ぶことで戦争や紛争で自国を追われた人々の自立を応援する。

紛争地域から難民キャンプ等へ逃れた人々も紛争がなければ私たちと同じ生活を送っていた。着の身着のまま自国を追われた人々の経済的自立を支援している林芽衣さんと知り合うことができた私たちは「難民女性の力になりたい」との思いからフェアトレード活動を始め、取引（フェアトレード）ができるような仕組みを学んでいる。年に数回、学校内外でチャリティバザーを開催している。今年も10月に愛知県国際展示場で開催されたSDGs AICHI EXPO 2023でブースを出展し、林さんの取組を紹介するとともに、難民女性の製作したバッグやポーチなどを販売した。6月の「世界難民の日」には林芽衣さんから直接、ヨルダンの難民キャンプで生活している難民女性の支援を通じて難民に対する人道支援の大切さを学んだ。



難民学習会
ユニクロ台湾と高校生

2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻に伴って多くのウクライナ難民が自国を追われた。2024年1月になっても収束には至っていない。さらに、2023年11月にはイスラエルがパレスチナ自治区のハマスに対して攻撃した。国連UNHCRの報告によると難民は1億人を超え、未だに増え続けている。この現状を多くの人に知ってもらうため、本校では毎年2月に「難民支援のタベ（今年度で6回目）」を開催している。2023年の2月には紛争地域取材するTBS記者須賀川さんとの対談会を開催し、YouTube配信することで虐げられている人々の現状を報告した。



SDGs AICHI EXPO 2023で説明する生徒たち

成 果

パートナーシップ活動をととして、同じ地球の人間として当事者の心に寄り添うことの大切さを学んだ。同じ地球に生きる「地球市民」として戦争を引き起こさないためにも日頃から交流し、お互いを理解し協働活動に取り組むことの大切さを学んだ。



世界難民の日の協働学習会



- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

実践内容②

「カンボジア貧困地域の子供たちの力になりたい」

ねらい：紛争に起因する貧困や教育格差問題について深く学び、子供たちの力になる。

新型コロナが世界中に広がる前の2019年にカンボジア貧困地域の教育格差問題に取り組むNPO法人と知り合うことができた私たちは、同法人が約10年前に建設した小学校について対談した際に、家庭の事情で小学生が学校に通えない現実を知った。少しでも学校生活が楽しくなる仕組みづくりとして日本の学校には当たり前にある遊具がカンボジアの学校にはなかったため、遊具を贈るための



夏祭りで行ったチャリティ模擬店

資金作りとして、パートナーシップ協定校がそれぞれの学校の文化祭などでチャリティバザーを行い、その収益金を送った。2020年と2021年はコロナ禍で手に入らないマスクを自作し、韓国や台湾などの海外の高校とも協力して送った。マスクは2年間で約33,000枚を集めた。2022年の夏は企業とも協力して手洗い場、2023年の夏は鉄棒資金をそれぞれ寄贈した。

成 果

現地に必要な支援を行うためには現地の状況を知ることが大切であることを学んだ。また、活動を行うにあたっては、たくさんの人々の協力が必要であることを学んだ。そのために、自分たちが学んだことを校内外へ伝える活動の大切さを学んだ。

実践内容③

「パートナーシップで取り組む国際平和貢献活動」

ねらい：企業や専門家などから学び、ともに活動する仲間づくりを大切にしたい。

国際平和貢献活動を実施するためには、企業やNPO法人など専門家の皆さんから学ぶことが大切である。また、実際に活動するためにはより多くの人々の協力が必要である。そこで、同じ思いをもつ人々と連携するために、パートナーシップ協定を結んで活動した。「平和の架



Bridging for Peace Global Conversation
協働国際支援成果発表会

け橋プロジェクト」と名付け、困っている人たちと企業・私たちの活動が架け橋となつてつながり、このつながりが連鎖反応を繰り返して広がっていくことを強く願っている。2023年12月には、本校が鳳山商工学校（台湾）を訪問し、互いの活動を報告するなどの交流を実施することができた。今後もパートナーシップ協定校間の連携を深めていきたい。

成 果

企業や国内外の学校と連携して行った活動（2018年から2023年まで）
カンボジアのNPO法人とのオンライン対談（15回）・ヨルダンのトライバロジーとの対談（9回）・台湾とのオンライン交流（9回）・韓国とのオンライン交流（6回）・国内の専門家との対談（6回）・国連UNHCR学校パートナーズ難民映画祭（4回）・服のチカラプロジェクト合同学習会（2回）・台湾へのユネスコ活動交流研修旅行（1回）

おわりに

ユネスコ憲章の前文にある「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」とあるように、同じ地球に生きる「地球市民」として、かけがえのないこの地球を守っていくためにも、それぞれの国が、平和の尊さを認識するために日頃

から交流することの大切さを学んだ。お互いの国の歴史や文化を知り尊重し合うことで、同じ地球市民であることを自覚し、戦争や紛争のない平和な地球の実現に寄与していきたい。ウェルビーイングに向けた取組をパートナーシップを通じて継続していきたい。

- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

- 環境
- 国際理解
- 地域文化
- 気候変動
- 生物多様性
- 防災
- エネルギー
- その他

中部大学第一高等学校



創立：1938年
住所：〒470-0101 日進市三本木町細廻間425
連絡先：TEL 0561-73-8111 FAX 0561-73-8031
学級数：36 生徒数：1,202人
HP：https://www.chubu-ichi.ed.jp/

創造と探究

はじめに

本校の建学の精神は「不言実行、あてになる人間」である。本校では、建学の精神とユネスコスクールの三つの重点分野を包括するコンセプトを「ICT×ESD×探究」と定めている。今年度は「創造と探究」をテーマに「ESD

コースプログラム履修制度」として成立する多様なESD・SDGsカリキュラムを通じて10の「ESD資質能力」を育むことを目的とした。

実践内容①

「Creative Project（普通科文理探求コース）」

ねらい：国際社会に求められる国際感覚と幅広い教養、グローバルな視点を養う。

普通科文理探求コースでは2年次よりグローバル系という選択系を設けている。グローバル系では、外国語や地歴を中心とする教科横断型・探究型のグローバル科目〈プロジェクトスタディ／クリエイティブ表現／国際文化研究〉を設定しており、国際的な諸問題の探究やマーケティング、情報発信の方法などを学んでいる。今年度は愛知県の「Accessibility」に関する調査を一つのプロジェクトとして設定しており、名古屋市内でのフィールドワーク調査も実施した。併設校である中部大学（特に国際関係学部）と



Global Fieldwork

の高大連携授業も充実しており、大学での研究活動発表も行っている。

研究発表実績

〈中部大学国際関係学部2年次授業「国際応用演習A」
「Universality in Diversity
－In Terms of Pictograms－

〈ESD大賞発表会〉

「Make Aichi Accessible
－AA:名古屋市のアクセシビリティ調査に基づく
WEBデザインと分析－

「世界の発酵文化とBENTO
－Fermentation Culture Around the World
and Bento－

成果

グローバル科目での学びは、地域での実践や高大連携での質の高い学びにつながっている。ESD資質能力調査の結果からは、創造力や発信力の得意意識の向上が見られる。



実践内容②

「ESDコースプログラム」

ねらい：創造的な探究活動を通じたESD資質能力の向上

本校では総合的な探究の時間を「ESD探究」と位置付け、各生徒が独自の調査、研究を進めている。その発展的な学びの場として本校が設定する一連のプログラムへの主体的・継続的な参加、研究レポートの提出、研究発表、口頭試問を経て、「ESDコースプログラム履修生」として認定する制度の運用を本格的に開始した。2023年度は3年生7名の研究（以下・共同研究を含む）を認定した。

「香りの創造－地域の風景を香りで再現する試み－」
「持続可能な社会デザイン
－地域の植物調査と世界遺産のあり方から－」
「文化の歴史保存
－日本とクメールの比較文化の観点から－」
「ディズニーの建築技法と応用」
「真のユニバーサルデザインとは」

「ESDコースプログラム」の主な対象プログラムは以下のとおりである。

- ・ESD大賞／一高発表会：
ESD活動成果・SDGs探究成果発表会
- ・ESD CREATIVE AWARD：
SDGsをテーマに自由に創造し「表現力」を養うコンテスト
- ・ESD国内研修（8月）：
長野県白馬村の企業や行政と高校生が連携を進める国内研修
- ・ESD海外研修（3月）：
カンボジアの世界遺産であるアンコール遺跡群の修復活



ESD CREATIVE AWARD 優秀作品

動と寺子屋交流を実施する海外研修プログラム（2022年度はカンボジア研修を4年ぶりに再開）

- ・探究ライブラリー：
探究成果の審査を経て専用WEBサイトで生徒及び教員に成果を共有するシステム
- ・Global Lounge：
留学生との意見交換や探究的な学習の場

探究を含む様々なESDプログラムについて10観点の「ESD資質能力」評価を行っている。本校が設定する資質能力は以下のとおりで、自己分析調査も年に2回（4月／10月）実施している。

- ①持続可能性／SDGsに関する知識・理解・スキル習得
- ②持続可能なライフスタイルの実践 ③情報収集・選択・活用力
- ④論理的思考力 ⑤批判的思考力 ⑥創造力（応用力・企画力）
- ⑦発信力（言語化力・プレゼンテーション能力）
- ⑧行動力（主体性・課題発見能力・責任感・リーダーシップ）
- ⑨協働性（傾聴力・柔軟性・合意形成と協力）
- ⑩多様性と共生の尊重

ESDプログラム・ユネスコスクールに関わる活動の詳細については、以下のWEBサイトで詳細を確認できる。
〈CHUBU1 ESD & ASPnet〉
<https://sites.google.com/chubu-ichi.ed.jp/cu1-esd/>

成果

学びの機会や仕組みの多様化により、独自性の高い研究活動が増えてきた。ESD資質能力調査では③⑥⑦において得意意識の向上がうかがえた。また、学科の特性を生かした学習や部活動での取組は高大接続や地域での取組へと広がっている。

おわりに

ESDコースプログラムへと導かれる一連のESDプログラムの発展は、生徒のESD資質能力の向上と進路指導の充実へとつながっている。今後は、本校独自の探究教材

の改良と教育支援システム（探究アドバイザリーアワー・ESDウェブライブラリー・ESD資質能力分析シートなど）の更なる充実を進める。



愛知県ユネスコスクール交流会

全国一の規模を誇る愛知県のユネスコスクールへの支援とESD（持続可能な開発のための教育）活動の広がりをねらいとして、ESD活動やSDGsに関心のある小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校、大学の、児童、生徒、学生、教職員、行政、団体が集う交流会を開催しました。ESD（持続可能な開発のための教育）活動の紹介を通じて、持続可能な社会づくりの重要性について未来を担う子供たちが学び合いました。ここに集う子供たちの輝く笑顔は、私たちの心にESD活動の大切さと未来への希望を届けてくれました。

「2023年度愛知県ユネスコスクール交流会」は、Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）で2023年10月5日（木）から10月7日（土）まで開催された「SDGs AICHI EXPO 2023」においてプログラムの一つとして実施しました。

- 日 時

ブース発表：2023年10月5日（木）から2023年10月7日（土） 午前10時から午後5時まで
サブステージ発表：2023年10月7日（土） 午後3時15分から午後4時45分まで
- 会 場

Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）展示ホールA
※ステージ発表のもようは、「SDGs AICHI EXPO 2023」公式ホームページからオンライン配信も行いました。
- 主 催

愛知県教育委員会
- 後 援

日本ユネスコ国内委員会、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）、
中部ESD拠点協議会、ESDコンソーシアム愛知

ブース発表 10/5（木）～7（土）

TIME	プログラム
終 日	ポスター展示（2校）
	愛知県立豊田東高等学校 「姉妹校との異文化交流から考えるSDGs」 オーストラリア姉妹校訪問団との学校交流を通して考えた異文化理解とSDGsについての報告
	名古屋市立山田高等学校 「『命』、『環境』、『心』、『防災』～YMD的ユネスコスクール～」 山田高校でおこなっている「命」、「環境」、「心」、「防災」をテーマとした人間教育プロジェクトの報告
	2022年度ユネスコスクールの取組紹介（サイネージ映像） 昨年度、愛知県内の加盟校が取り組んだ活動をまとめて紹介 ※会期中ループ再生

ワークショップ 10/7（土）

TIME	プログラム
終 日	ワークショップ 名古屋大学教育学部附属中・高等学校 「体験型SDGs ～見て・触って・体験しよう～」 初歩的な英語を使って遊んだり、ジェンダー平等についてのゲームをして、SDGsを実際に体験

ブース発表 10/7（土）

TIME	プログラム
11:00～11:30	ポスターセッション①（2校）
	中部大学第一高等学校 「ESD海外研修 in カンボジア 研修報告」 世界遺産であるアンコール遺跡の修復などに取り組んだカンボジアESD研修の報告
13:30～14:00	名古屋大学教育学部附属中・高等学校 「知ってるようで知らない日本と世界の違い」 当たり前だと思っていた日本の日常が…。留学を経験した高校生たちが現地で知ったびっくりを紹介
	ポスターセッション②（2校）
	中部大学第一高等学校
	名古屋大学教育学部附属中・高等学校



ポスター展示



2022年度ユネスコスクールの取組紹介



ワークショップ



ポスターセッション



ポスターセッション



ポスターセッション

交流会プログラム〈メインステージ〉 10/7(土)

TIME	プログラム
15:15	開会行事（主催者挨拶） 愛知県教育委員会 教育改革監 坂川 智
15:20～16:10	ユネスコスクール活動発表
	ちゅうぶ だいがく だいいち 中部大学第一高等学校 「香りの創造」 自然の香りとSDGsの観点から「地域の香り」の創造を試みる研究報告
	なごやし きた 名古屋市立北高等学校 「北高ユネスコ委員会の1年間」 北高ユネスコ委員会2022年度後期－2023年度前期活動報告
	なごやし けいざい だいがく しまつり 名古屋経済大学市邨高等学校 「未来をつなぐプロジェクト」 校外の専門家や企業から世界情勢を学んで実施した、中東・ウクライナ難民、カンボジア 貧困支援活動の報告
	あいち けいりつ とうりつ とうがく とう 愛知県立豊橋南高等学校 「教育を通して地域社会に貢献する」 今年度のユネスコスクールの活動を中心に生徒が主体的となり行動し、地域社会に貢献した 報告
	あいち しょうぎやう とうりつ とうがく とう 愛知県立愛知商業高等学校 「ミツバチから広がる地域の輪 ～持続可能なまちづくりを目指して～」 地域活性化を目標に校舎の屋上で養蜂活動を行い、蜜蜂を通した環境に関する活動等 についての報告
16:10～16:45	ディスカッション（発表者と参加者によるディスカッションなど） アドバイザー：かながわユネスコスクールネットワーク 事務局長 もちづき ひろあき 望月 浩明 氏



メインステージ・ユネスコスクール活動発表



ディスカッション



ディスカッション

ユネスコスクール活動事例集 第11集

令和6年3月発行

愛知県教育委員会あいちの学び推進課
〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電 話 052-954-6780（ダイヤルイン）
ファックス 052-954-6962